

## 岩手県・福島県で世界最先端の「国際リニアコライダー(ILC)」と 「福島国際研究教育機構」を考える

開倫塾

塾長 林明夫



Q：この夏、岩手県と福島県の被災地に視察に行ったそうですね

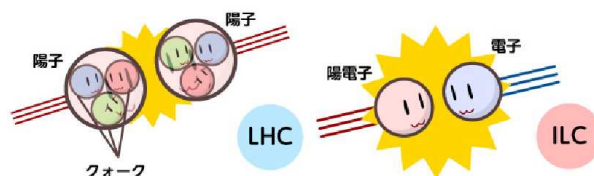
A：はい。20年近く幹事を務める「公益社団法人経済同友会・防災・震災復興委員会」の委員の一人として、7月28日・29日に岩手県(大船渡市・盛岡市)、9月1日・2日に福島県(郡山市・双葉町・大熊町・南相馬市・福島市)の被災地や企業、県庁、地元経済団体などを訪問、見学や意見交換をさせていただきました。委員長は、AGC元会長で、産業技術総合研究所理事長の石村和彦氏、ごく数名での視察・訪問でした。

Q：一番参考になったのは何ですか

A：(1)岩手県での、「国際リニアコライダー(全長約20kmの地下・100mのトンネルの両端から電子と陽電子を加速して、正面衝突させ、ビッグバン状態を再現することによって素粒子と宇宙の謎を解明するもの。略称ILC)」の全県あげての推進運動です。

(2)コロナ禍前までは順調に計画が進んでいましたが、コロナ禍で審議会などの開催が遅れているようです。

(3)この「国際リニアコライダー(ILC)計画」は、世界初の大規模直線超電導加速器を用いた素粒子物理学の世界最先端施設です。国際共同科学プロジェクトとして世界各国が資金を分担して日本に建設しようとしているもので、東北、とりわけ岩手県にとってこんな有難いものはありません。これで、東北、とりわけ岩手県が世界トップレベルの素粒子研究の学問的中心の1つになるからです。



Q：福島は何がありますか

A：(1)「福島国際研究教育機構(令和5年4月設立予定)」があります。沖縄県にあるOIST(沖縄科学技術大学院大学)の福島県版ともいえます。

(2)OISTの反省を踏まえ、「福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望」になるものとすると同時に、「我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引」し、「経済成長や国民生活の向上」に貢献する、「世界に冠たる『創造的復興の中核拠点』」を目指すものです。

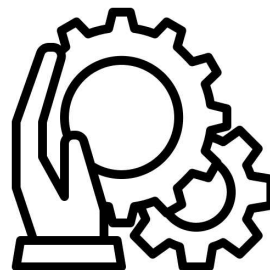
(3)①ロボット、②自動生産システムの農業、③水素エネルギーやネガティブエミッション技術、④放射線科学・創薬医療(新しいRI医薬品によるがん治療)、放射線の産業利用(超大型X線CT装置、ものづくりDX)、⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

(4)福島県浪江町JR駅南に国が立地を決定したようです。

Q : すごい国家プロジェクトですね

A : (1) 国も地元の県・自治体も、岩手県と福島県の被災地を一日も早くどうにかしなければとの熱い思いで、本当に一所懸命取り組んでいるのがよくわかります。

(2) 安倍元首相の遺言である「東北の復興なくして、日本の復興なし」「福島の復興なくして、東北の復興なし」をどうにか成し遂げようと、皆、真剣です。



Q : 参考になった企業視察はありましたか

A : (1) 岩手県では、7月29日の午前中に大船渡市の太平洋セメント(旧小野田セメント)を視察。大船渡工場は、3.11で7メートルの津波被害にあった6日後から組織的な復旧班をつくり、2か月後の5月9日から送電を再開。6月22日から「がれき処理」をスタートし、半年後の11月4日から「がれきのセメント処理」を開始。翌年、6月28日から「がれきのセメント資源化」を実用化。3.11の1年半後には、3市2町の「がれき」を「1日750トン」「セメント原料化」。押し寄せる津波から出た、目の前に積み上がった「がれき」を見て、セメントの資源化を思いつき、それを驚くほどの短期間で事業化しました。理科系の技術者の皆様の底力に心から感動しました。

(2) 福島県では、9月2日の午前中に「ロボコム・アンド・エフエイコム南相馬工場」を視察。製造業DX、デジタルファクトリーロボット化プロジェクトの第一人者である天野真也代表取締役社長から、「南相馬からロボット技術発信に向けた取り組み」と「地元企業や行政・大学などとの連携について」工場を視察しながらお話をお聞きしました。

- ①自動3次元測定で徹底した品質管理
- ②24時間稼働、全自動・無人加工工場でコスト削減
- ③最適スケジューリング生産で超納期短縮を実現

隣接する「ドローン試験飛行場」とともに南相馬のロボット分野を牽引しています。

(3) 岩手県も福島県も、復興はようやく緒に就いたばかりといえます。特に全町避難を余儀なくされた福島県双葉町では、8月30日帰還困難区域のうち特定復興再生拠点区域(復興拠点)の避難指示が解除され、町面積の15%で居住が可能になったばかりです。「福島の復興なくして、東北の復興なし」を合言葉に、これからも、日本国民全員が、皆で、力を合わせた考えます。



Q : 学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことがありますか

A : 福島県双葉町にある「東日本大震災原子力災害伝承館」は、先生方や塾生・生徒・保護者の皆様にとりとても勉強になる施設です。郡山市にある産業技術総合研究所、福島再生可能エネルギー研究所や南相馬市のロボット工場・ドローン試験飛行場などを、組み合わせての「研修旅行」など、是非、ご計画ください。



## Q：最後に一言どうぞ

A：今月も僭越ながら、先生方が読めば参考になる本をご紹介します。

- (1) 読書の秋ですので、1冊目は、大内兵衛・茅誠司他著「私の読書法」岩波新書 1960年10月20日刊です。例えば①本の余白には新聞の見出しのようなものをどんどん書き込み、書物兼ノートブックのようにする ②1か月1万ページ ③乱読から批判的読み方を ④枕下に書を置いて眠る喜び ⑤シェイクスピアを映画で見るときは本を読み返す ⑥図書館で本を読むときは、必ずルーズリーフ式のノートブックを持って ⑦高等学校時代はみんな一番本を読む時代である ⑧めいめいが人に見せない読書ノートをつくる ⑨忙しい仕事の合間にかえて貴重な暇が見つかるように、一種類の読書に没頭している間にかえて別の種類の書物がよく読めるものである ⑩自分の感想なり批判なりを、その都度カギかっこでくくって書き綴っておく ⑪本を読む心得として、どんな本でも初めの100ページをていねいに読め ⑫あとまで役立ったのは一高受験のための準備として国漢英数の勉強であった。本を読むための実力がつけたかった ⑬買った本は扉から奥付まで全部読む ⑭自分で面白いと思わないものには手を出さない ⑮わたしども(役者)が本を本として本当に読むのは戯曲ぐらいなもの ⑯本のとじが切れるほど読んで、また新しい本を買うときの気持ちというものはなかなかいい ⑰響きのある文章を好む。もっと声を出して本を読む ⑱物語一小説は現実の世界とは違うもので、それは現実より遥かに色彩の濃い興味本位のものだ ⑲源氏物語を新しく読む人は、「若葉」からはじめて、あとで「桐壺」をよみ直すのがいい

\*などなど、ためになる「読書法」が満載です。詳しくは本書をお読みください

- (2) 2冊目は、二宮尊徳の教えをまとめた福住正兄筆記「二宮翁夜話」岩波文庫 1933年6月25日刊です。二宮尊徳の行動を集大成した富田高慶述「報徳記」と併せてお読みください。渋沢栄一が尊敬してやまなかった日本型資本主義の原点、二宮尊徳の思想と行動がよくわかります。
- (3) 3冊目は、カルロス・レイス・サフォン作、木村裕美訳「精霊たちの迷宮(上)(下)」集英社文庫、2022年8月19日刊です。同著同訳・同文庫刊の「風の影」2006年7月20日刊、「天使のゲーム」2012年7月20日刊、「天国の囚人」2014年10月17日刊シリーズ、待望の完結編です。スペインやヨーロッパで大人気のシリーズです。
- (4) 4冊目は、小林秀雄著「考えるヒント1～4」文春文庫 1975年6月25日刊です。示唆に富むエッセイ集です。

読書の秋です。昔読んだ本を再読、再々読するにはうってつけの季節です。